岩盤ボーリング柱状図

調査名 ［電子］［災害対応No.42］井原地区　平成30年7月豪雨災害に伴う応急対策業務

事業・工事名

調査目的及び調査対象 砂防　地すべり・斜面崩壊

ボーリング名	Bor.B-3	調査位置	広島市安佐北区白木町井原　神ノ倉山	北緯	34° 35’ 15.0706″
発注機関	広島県西部建設事務所	調査期間	平成30年 9月20日～平成30年 9月28日	東経	132° 41’ 29.3728″
調査業者名		主任技師		現場代理人	コア鑑定者 / ボーリング責任者
孔口標高	473.03m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	0°北 270°西 90°東 180°南
総掘進長	23.00m	地盤勾配	0° 水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試錐機：東邦D1-B　４８型 / エンジン：ヤンマーNFD-13 / ポンプ：東邦BG-3C

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	工学的地質区分名（模様）	工学的地質区分名	色調	風化の程度	変質の程度	硬軟	コア形状	割れ目の状態	岩級区分	記事
	472.93	0.10	GH-S 砂混り粘土									
	472.23	0.80	GH-S 砂混り粘土		茶							GL-0.00～0.10mは表土。砂混り粘土で植物根を混入する。 GL-0.10～6.30mは崖錐堆積物。全体的に粘性分を含む。砂は細砂主体で、礫はφ=2～20mm程度の角礫。
	470.63	2.40	S-C 粘土混り砂		茶褐							
	466.73	6.30	S-G 礫混り砂									掘削中に漏水はほとんど確認できなかった。
	462.93	10.10		風化斑レイ岩				E		d	D	GL-6.30m以深は、基盤岩。 GL-6.30～21.20mまで、風化斑レイ岩で、DL～DM級とDH級のコアを繰り返す。 DL～DM級のコアは、全体的に風化が激しく、土砂状を呈す。指圧で容易に変形し、割れ目は不明瞭である。 DH級のコアは、礫状または短柱状で採取される。全体的に亀裂が多い。
	460.53	12.50									D	
	459.43	13.60			灰褐	w5	h1	D	VI	c	D	
	457.93	15.10						E		d	D	
	456.53	16.50						D		c	D	
	453.73	19.30						E		d	D	
	453.23	19.80						D		c	D	
	452.63	20.40						E		d	D	
	451.83	21.20						D		c	D	
	451.03	22.00		斑レイ岩	灰	w3		C	IV	b	CM	GL-21.20mより、CL～CM級のコアを確認した。コアは、比較的新鮮かつ硬質で柱状にて採取された。
	450.03	23.00				w4			V	c	CL	

コア採取率 ―×― (%)　最大コア長 ―●― cm　RQD ―― [%]

孔内水位／測定月日：9/26 6.90　9/28 15.80

標準貫入試験：深度－N値図

標準貫入試験 N値	深度	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量	原位置試験	室内試験

削孔月日	削孔速度 (cm/h)	孔径・孔壁保護	コアチューブ・ビット	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	削水・送水量 (L/min)	排水量 (L/min)
9/21	600	66／ケーシング	／SW／MC	0.1	60	0.0	W3 0.0	0.0
	70		／HW／DI（ボトム）	0.0	150	0.2	W3 10.0	10.0
9/22	60		／HW／DI（ボトム）	0.0	150	0.3	W3 10.0	10.0
9/25	80			0.0	150	0.5	W3 10.0	10.0
9/26	80			0.2	150	0.3	W3 10.0	7.0
9/27	70			0.2	150	0.3	W3 10.0	5.0
9/28								